

令和6年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年では確認テストや定期考査の解き直しを継続して行った結果、基礎・基本の定着に関して努力する姿勢が見られた。
- ・授業内で教え合うことで、知識をもとに表現する生徒が増えているので継続したい。
- ・第3学年では基礎的な計算は定着するとともに文章題にする工夫や簡単な問題を解くことで、自分で考えようと努力する姿勢が身に付いてきた。(このままでもいいかな)
- ・昨年の成果として、話し合いや学び合いの活動を通して、様々な考え・解法を知り、よりよい方法を導き出そうとする生徒が増えたことと、テスト直しの課題を継続したことで技能・考え方の向上が見られ、意欲・関心が高まっていることを継続したい。

(2) 課題

- ・第1学年は、3つの観点とも区平均を下回っている。小数・分数に苦手意識がある生徒も見られるが、平均を超えている。特に図形分野で正答率をあげる必要がある。
- ・第2学年は、3つの観点とも区平均を下回っている。比例・反比例に苦手意識がある生徒が見られるので、関数の分野で正答率を上げる必要がある。
- ・第3学年は、3つの観点で区平均を上回っている。特に関数分野で基礎の力を伸ばす必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	正答率は、目標値を下回った。	/	/
第2学年	正答率は、全体的に目標値・区の平均ともに下回った。	正答率は、目標値を下回った。 (第1学年時)	/
第3学年	正答率は、区の平均を上回った。	正答率は、全体的に目標値は上回ったが、区の平均を下回った。(第2学年時)	正答率が過去2年間の1年生よりかなり低い。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率は目標値、大田区平均を下回っており、課題である。	正答率は目標値、大田区平均を下回っており、課題である。	正答率は目標値、大田区平均を下回っており、課題である。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率は目標値、大田区平均	正答率は目標値、大田区平均	正答率は目標値、大田区平均

を下回っており、課題である。	を下回っており、課題である。	を下回っており、課題である。
----------------	----------------	----------------

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率は、大田区平均を上回った。	正答率は、大田区平均を上回った。	正答率は、大田区平均を上回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文字と式、図形に課題が見られる。文字式、方程式等の分野で力を入れ、問題を数多く解かせていく必要がある。	図形、データの活用の分野で課題が見られる。平面図形、データの活用の分野で、基礎力を伸ばしながら、課題解決の問題や思考を必要とする問題で思考力を身に付けさせる。	データの活用では概ね平均に近い。記述の問題に課題があるので、考えを書かせる機会を増やし、身の回りの問題や課題解決の問題を話し合いなどで関心をもたせながら、取り組ませる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
計算分野は定着してきていると思われるが、比例・反比例において正答率が低いので数多く解かせていく必要がある。	どの分野においても課題が見られる。計算問題だけでなく、課題解決の問題や思考を必要とする問題数を増やして思考力を身に付けさせる。	記述以外では概ね平均に近い。考えを書かせる機会を増やし、身の回りの問題や課題解決の問題を話し合いなどで関心をもたせながら、取り組ませる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な計算は正答率も悪くなく定着していると思われるが、連立方程式において平均を下回る値を示している。方程式の分野で問題を数多く解かせていく必要がある。	1次関数、証明の分野に課題が見られる。復習を取り入れながら課題解決の問題や思考を必要とする問題に取り組む時間を設け、解法について話し合い、思考力を身に付けさせる。	連立方程式、証明の分野に課題が見られる。身の回りの問題や課題解決の問題を話し合いなどで関心をもたせながら、取り組ませる。